

戦争と学校① 戦場に行った教師たち

戦時中とは太平洋戦争に突入した日から終戦をむかえた日まで、つまり、真珠湾攻撃行われた昭和16年(1941)12月8日から「戦時」が始まり、終戦を迎えた昭和20年(1945)の8月15日をもって終わりました。戦争になって、日本の若者は、兵隊としてどんどん戦場に送られましたが、小学校の先生も例外なく、次々と学校を去らなくてはなりませんでした。右の写真は園田第三国民学校(現:上坂部小)石塚義次先生の壮行会です。「祝 石塚義次先生」ののぼりや日の丸の旗をかざって、先生を励ましながら見送ります。また、2枚目の写真は、校務員の山口さんの壮行会です。見送る人達、戦争に行く人達は、どんな気持ちだったのでしょうか。



前列男子 左から2番目は金井校長先生です。その隣が石塚先生でしょうか…

防空壕を作る生徒たち

3枚目の写真は、勤労奉仕で防空壕をつくる高等科の生徒たちです。写ってはいませんが、すぐ手前に防空壕があります。「高等科」とは、昭和16年に国が作った「国民学校令」という法律にもとづき、学校が「園田第三国民学校」という名前が変わるとともに作られたものです。夜間に空襲警報が鳴るたびに、校区に住む先生、宿直の先生が「御真影」(天皇の写真)をかかえて、ここに逃げこみました。近所の人たちも近くの防空壕に避難しましたが、この穴の中で出産した人もいます。前列左は、三代目校長の吉田雄次先生であることから、昭和17年前後の写真と見受けられます。

